

統計委員会基本計画部会第1ワーキンググループ会合（第4回）議事概要

1 日 時 平成25年9月12日（木）12:58～14:59

2 場 所 中央合同庁舎第4号館2階 共用第3特別会議室

3 出 席 者

【委員】

深尾座長、西郷委員、中村委員、廣松委員

【学識経験者】

櫻本健 松山大学准教授、牧野好洋 静岡産業大学准教授

【府省・地方公共団体等】

内閣府、総務省統計局、総務省政策統括官（統計基準担当）付、財務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本銀行、埼玉県

【事務局】

内閣府統計委員会担当室：村上室長、清水参事官、清水政策企画調査官ほか

総務省政策統括官（統計基準担当）付：横山統計企画管理官、山田統計審査官、澤村企画官ほか

4 議事次第 （1）第1ワーキンググループ審議結果報告について
（2）その他

5 議事概要

（1）第1ワーキンググループ審議結果報告について

① 報告の構成（案）について

第1ワーキンググループ審議結果に基づく次期基本計画の「基本的考え方」の構成（案）について、前回会合からの変更部分を中心に、事務局より説明があり、審議が行われた。

当該項目の審議時には具体的な修正意見は出されなかったものの、整理票の審議時の指摘（ストック統計をSNAだけでなく産業関連統計でも扱うこと）を報告の構成（案）にも反映させることとなった。

② 整理票（案）について

第1ワーキンググループにおける平成24年度統計法施行状況審議結果の整理票（案）について、テーマ毎に前回会合からの変更部分を中心に、事務局より説明があり、その後審議が行われた。主な意見等は次のとおり。なお、環境統計、観光統計、交通統計の整理票（案）については特に意見等はなかった。

（ア）国民経済計算の整備

- ・ 地域経済計算について強調して記載した点は評価する。但し、現行基本計画では国民経済計算の整備の中にストック統計の整備も盛り込まれているのに対し、実施状況を踏まえてのことかもしれないが、今回の国民経済計算の整理票（案）には記載がない点は気になる。
- スtock統計の整備はSNAに関するものと一次統計に関するものがある。例えば資本サービス投入量は08SNAの課題であり、今回は基本的な考え方なので、08SNAへの対応として大枠で書いている。一方、一次統計のストック統計の整備は企業統計の整備のところで新たに記入。国富調査を断念するのは理解するが更なるストック統計の充実が必要という指摘もあったため、企業活動基本調査以外の企業関連統計も含めて体系的に見られるような企業統計の整備というところでストック統計も含めて整備できないかと考えている。
- ・ その考えであれば、報告の構成（案）の図示の仕方を、(4)の企業統計のところにもストック統計が入るといように修正すれば良い。
- ・ 「JSNA と一次統計等との連携強化」の〈基本的な考え方〉の②について。サービス産業動向調査は年次調査など新たな取組を始めているが、それ以上のことを要求しているのか。この項目では、ある程度は基礎データのあるサービス産業動向調査と、一次情報そのものが存在しない流通在庫が、並列で記載しているのが気になった。
- サービス産業動向調査では中間投入構造の把握に必要な原材料費など経費に関するデータは取っていないが、産出面は捉えられるので、他統計とのリンケージを図り、企業と事業所のコンバーターも利用し、企業統計の方で大枠でとっている経費データを事業所に分割し、サービス産業動向調査のより詳細なサービスのアクティビティと組み合わせることで、中間投入構造の把握ができないかと考えている。
- サービス産業動向調査等で中間投入構造を得られることは、SNA作成部局としてかねてより要望していることであり、先程の関連箇所 of 文言調整には当方も参加させていただきたい。
- ◎ 具体的な表現の仕方だと思うので、委員、内閣府、事務局で調整して欲しい。ストック統計については報告の構成（案）で矢印をSNAだけでなく企業活動に係る統計の整備の方にも追記する。その他、議論はしたが整理票には書きこめていない次の2点を、記録に残すことを希望する。
 - ・ 産業連関表（基本表）とJSNAの基本価格表示に関する記載部分は、「検討する」となっているが、現在作成作業を行っている平成23年表の次の基本表やそれに対応したSNAの基準改定では是非対応する必要があるということで合意した。
 - ・ 一次統計との連携強化の記載部分は、時間軸や優先順位を考えて進めていく、いわば工程表のようなものを作ることが必要であると理解した。

(イ) 産業関連統計の整備（経済構造統計を軸とした産業関連統計の体系的整備、サービス産業に係る統計の整備、企業活動に係る統計の整備）

- ・ 産業統計部会の工業統計調査の審議の際に、労働生産性や全要素生産性の計測の重要性が議論になり経済統計全体の課題であるので基本計画部会の第1WGで検討して欲しいということになった。工業統計調査の審議における整理を申し上げますと、工業統計調査で従業者数を生

産労働者と非生産労働者に分けて把握することや一度廃止した有形固定資産を調査項目に復活することが検討課題となったが、前者は事業所レベルでは困難であること、後者は経済センサスで5年毎に捉えられており毎年把握する必要性が不確かであることなどから、いずれも工業統計では対応しないこととなった。ただ、経済統計の中で生産性の計測は重要な課題であり、工業統計の対象である製造業だけでなくより広い視野から議論すべきという指摘がなされて、基本計画部会第1WGの課題として検討していただくという整理となった。

- ・ 今の点は「企業活動に係る統計の整備」の整理票で、「資本や土地などのストック面に関する統計の整備については、…更なる取組の発展・充実が必要」、〈基本的な考え方〉の①で「企業活動に関する各種統計調査で共通的に把握すべき項目を整理」と記載しており、その背景には、例えば生産労働者と非生産労働者を把握している企業活動基本調査を念頭に、共通に把握すべき事項を整理して他の産業をカバーしている企業統計にも広げようという考え方があるという理解で良いか。
- ・ サービス統計・企業統計部会で個別の調査の審議をした際に、個別調査ではなく横断的な残された課題として、経済センサスー活動調査の在り方や経済センサスー活動調査の中間年における母集団情報の整備のための統計調査を中心とした枠組みの検討などについて、部会長メモを提出したが、それに関して「経済構造統計を軸とした産業関連統計の体系的整備」の整理票にあるような形で取り込んでいただいた点について評価したい。ただ、経済センサスは周期調査なので、ここで言う「検討する」は厳格な意味でタイムスケジュールが必要であり、それを記載するのは次期基本計画の話だろうが、その点を強調しておきたい。
- ・ 「経済構造統計を軸とした産業関連統計の体系的整備」の整理票で、〈基本的な考え方〉の⑥の文末は、文脈から考えると「把握の在り方を検討する」ではなく「その在り方を検討する」の方が良い。

(ウ) 建設・不動産に関する統計の整備

- ・ 国土交通省が、住宅・土地調査や法人土地・建物基本調査の結果を使って、我が国の土地の所有・利用状況全体の捉え方について検証を行うということだが、それは主に、世帯も含めて調査を行っているストック面という理解で良いか。
- 御指摘のとおり。

(エ) 経済活動のグローバル化に対応した統計整備

- ・ グローバル化への対応について、第2WGでは主として日本における外国人住民の議論をし、それは登録制度が整備され現行計画で指摘した課題は解決したとされたが、国際的な人口移動は、観光、あるいは企業活動に入るのか。
- ・ 海外現地法人における日本人の従業者数のより正確な把握などは海外事業活動基本調査の課題に含まれると理解できるが、日本国内の外国人の観光や海外での日本人の観光は、直接消費の形で国際収支統計の範囲に入っているものの十分捉えられていない可能性があつて他の観光統計も含めてどう整備するかという課題はあり得ると思う。

- ・ 財・サービスの国際的な取引、居住者と非居住者間の取引を包括的に捉えること、例えば産業連関表などは精度に問題があるため国際収支統計について言及したが、他にも観光統計や経済センサスー活動調査（外資系企業によるサービス供給など）などを総動員して調べるという視点は盛り込んでどうかという考え方はある。
- ・ グローバル化について、企業活動と財政の2つだけではバランスが悪いと感じたためであり、国際経済取引について包括的に捉えることの重要性を背景説明のところに追記することで構わない。

③ 報告（案）（本文）について

第1ワーキンググループ審議結果整理票（案）を基に作成した本文（案）について、事務局より説明があり、その後審議が行われた。主な意見等は次のとおり。

- ・ 「国民経済計算の整備」の最初の4行の国民経済計算の重要性に関する記述については、「国民経済計算体系」（以下、「SNA」という。）を主語とし、「このため」以下は「日本の国民経済計算体系」（以下、「JSNA」という。）を主語にした方が良い。
- ・ 用語の整理の観点からいうと、p2の(1)③の「国民経済計算」は「JSNA」の方が良い。
- ・ 日本における正式な名称は「国民経済計算」であり全てJSNAとするのが本当に適切かやや疑問。
- ・ 用語の整理について最初に指摘した立場として釈明すれば、当初の案文は複数の用語が不規則に混在していたからであり、日本語として通っていればどのように整理してもよい。

◎ 国民経済計算タスクフォースの先生とも相談し、事務局で統一をお願いしたい。

- ・ 「建設・不動産に関する統計の整備」のところで、リフォーム・リニューアル調査を議論するならば、その前の基本的な統計である着工統計の使い方についても記載した方が良い。例えば、行政記録情報である着工統計の情報とリフォーム・リニューアル調査の情報がどううまくリンクしているか気になった。

◎ 委員、国土交通省、事務局で相談して進めることとする。

- ・ 「経済活動のグローバル化に対応した統計整備」について、整理票に関する議論で出た意見についてはここでも反映する。また、国際収支統計は日本の国際取引を把握する一番鍵となる統計であるにも関わらず、整理票の〈基本的な考え方〉にも、本文の丸数字での記載にもないのは、アンバランスと思うのでできれば調整したい。
- 丸数字で並べてあるのは、「検討する」という具体的な課題への取組である一方、国際収支統計については、来年から国際収支マニュアル第6版（BPM6）への準拠等のための見直しで大きく変わるタイミングであり、今後はその定着度合と利用者の反応をフォローアップすることが必要であるという、具体的な課題への取組よりも前の段階であって、性格や位置付けが異なる。背景のところで記載で構わない。
- ・ タイミングという意味では理解するが、国際収支も〈基本的な考え方〉として残すべき。
- 国際収支統計がグローバル化において広く重要であると位置付ける形で報告書に入れてい

ただいたと思っている。そこに書くことと丸数字で書くこととで位置付けに大きな違いがあるのか。

- 今の想定では、〈基本的な考え方〉として丸数字で記載したものは、次期基本計画において、どういう行動をとるかという項目になる。本文のみに書くか、別表に詳細なアクションとして書くかなどを各府省と調整し、次期基本計画案として委員会に諮問し、答申、閣議決定となる。その中で、丸数字の整理と背景事情の整理は、意味合いが変わっていくことも大いにあり、今後、さらに検討し各府省とも調整していく。
- 上段の記載をそのまま丸数字のところに記載することではどうか。そうした途端に国際収支について更に子細に課題を書き込むことにつながるとは、座長と事務局も考えていない。
- ◎ フォローアップをして改善に向けての検討はするのだろうか、表現は調整させていただくが、丸数字に書くこと自体は良いのではないか。今後の調整は座長に一任させていただく。

(2) その他

最終的なとりまとめに向けた修正は深尾座長に一任され、第1ワーキンググループの審議結果は、9月18日(水)に開催される基本計画部会において、深尾座長より報告されることとなった。

以上

<文責 内閣府大臣官房統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>